

倫理的観点から見直す医療と福祉の社会学

日時：2009年10月3日(土) 13:00 開場 / 13:30 開演 / 16:50 終演

場所：『神戸学生青年センター』 (<http://www.ksyc.jp/>)

神戸市灘区山田町 3-1-1 Tel : 078-851-2760

(阪急六甲駅より徒歩3分、JR六甲道駅より徒歩10分マンションの1階半地下です。地図を印字の上ご持参下さい)

講演：

(1) 井口 高志 氏 (信州大学医学部保健学科)

演題 『研究倫理と向き合うことから社会学研究を問い直す

- 認知症ケアに関する調査経験から』

報告者の所属する研究機関では、保健医療福祉に関わる研究を行う場合に、学部を設置されている倫理委員会に計画書や説明文書・同意書のフォーマットを提出し、承認を得ることが推奨されている。「社会的」研究 特に、「質的」と分類されるような研究 においては、以上のような形の倫理規制のあり方に合わせることは困難であり、そのため、通常、強い「制約」として経験されることになる。だが、こうした規制の中において調査研究を遂行することは、社会学的研究の特徴を浮かび上がらせる一つの契機とも言える。本報告では、私の認知症ケアに関連する調査の経験を紹介しながら、そうしたことを考えてみたい。

(2) 山中 京子 氏 (大阪府立大学人間社会学部社会福祉学科)

演題 『個人情報の保護をどのように実現するのか

- HIV 感染者への面接調査経験を踏まえて -』

個人情報の保護は研究倫理上の重要な課題である。現在では医療機関における研究に関して事前に倫理委員会によって当該調査研究が情報保護の要件を満たしているのか審査を受けることが急速に一般化している。しかし医療機関の倫理委員会が示すすべての疾患に共通する研究倫理ははたして個別の疾患において調査対象者が望む個人情報の保護を実現しうるのだろうか。本報告では、筆者の HIV 感染者への面接調査の経験を踏まえ、第三者性を持つと言われる倫理委員会と調査の「当事者」である調査対象者と研究者の関係について検討したい。

コメンテータ：栗岡 幹英 氏 (奈良女子大学)

司 会：榎田 美雄 (徳島大学)

参加費：会員・非会員ともに 無料・予約不要

プログラム：

13:00	開場
13:30	開会、開会挨拶
13:35 - 14:25	井口氏 講演
14:25 - 14:35	コメントとリプライ
14:35 - 14:45	休憩
14:45 - 15:30	山中氏 講演
15:30 - 15:40	コメントとリプライ
15:40 - 16:15	質疑応答 (全体討議)
16:15	自己紹介 (来会者)
16:45	事務からのご案内
16:50	閉会 (懇親会の開催予定あり。詳しくは会場にて)

担当理事：榎田 美雄 (徳島大学大学院リソアーツ・アント・サイエンス研究部所属、総合科学部併任)

TEL/FAX (088) 656-9512 E-mail: kashida@ias.tokushima-u.ac.jp

## アクセスマップ

神戸学生青年センター（神戸市灘区山田町3-1-1 tel：078-851-2760）

